

NEWS LETTER

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニュースレター No.51

- 目次 -

1 . 2005 年度査読論文の募集と投稿方法	1
・ 募集の会告	
・ 査読論文投稿規程	
・ 投稿論文形式：執筆要領と和文原稿作成例	
・ 地域安全学会査読論文送付票	
2 . 2005 年度総会・第 16 回地域安全学会発表会(春季)・ 公開シンポジウム等開催のお知らせ	7
3 . 調査・企画委員会の 2004 年度活動報告と 2005 年度 活動計画 (調査・企画委員会の新小委員会テーマ決 定と委員募集のご案内)	9
4 . 役員選挙規定改定案の概略説明	11
5 . Information	16



地域安全学会ニュースレター
ISSS News Letter

No. 51
2005. 4

1. 2005 年度査読論文の募集と投稿方法

平成 17 年 3 月
地域安全学会 学術委員会

平成 17 年度の「論文査読システム」は、下記に示す通り例年と大きく変わり、電子申込・電子投稿となります。2005 年 5 月 2 日(月)～5 月 27 日(金)までの期間内に地域安全学会ホームページ(www.iss.info)から、論文申込(講演申込を兼ねる)と論文原稿を同時に投稿してください。会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の投稿期限
平成 17 年 5 月 27 日(金)
- (2) 第一次査読結果の通知
平成 17 年 8 月初旬
- (3) 印刷用オリジナル原稿の提出期限
平成 17 年 9 月 2 日(金)
- (4) 「地域安全学会論文集 7」への登載可否の通知
平成 17 年 9 月下旬
- (5) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文賞・論文奨励賞の審査を兼ねる)
月日：平成 17 年 11 月 11 日(金)～13 日(日)
場所：静岡県地震防災センター
- (6) 論文賞・論文奨励賞授与式(平成 18 年総会に予定)

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1 万円 / 編
- (2) 査読料の納入方法
期 限：平成 17 年 5 月 27 日(金)までに、宛てに振り込んで下さい。
振込先：みずほ銀行 浅草支店
口座名：地域安全学会 論文口座
口座種別：普通口座
口座番号：1 5 4 0 7 3 6
振込者名：筆頭著者
その他：査読料の入金確認後、論文申込の完了とさせていただきます。

3. 登載料の納入

- (1) 登載料(論文集 1 冊, 別刷り 50 部を含む)
カラーを用いない場合、
6 ページまでは、2 万円 / 編, 10 頁を限度とする偶数頁の増頁については、5 千円 / 2 頁。
カラーを用いる場合、
事前に委員会までお問い合わせ下さい。約 5 万円 / 頁の追加となります。
- (2) 登載料の納入方法
平成 17 年 10 月 7 日(金)までに、上記 2.(2) の振込先に振込んで下さい。

4. その他

- (1) 申込期間の締切りに際して投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、受付ができなくなる恐れも出てきます。締切りに際しての投稿は極力避けていただくようお願いいたします。
- (2) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略(詳細は HP の指示に従って入力して下さい)
論文送付票
・申込者(筆頭著者であり発表者)の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。
・論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要(250 文字程度)を入力する。

・その内容を確認し、必要があれば修正する。

査読用論文原稿

・PDF形式にした原稿ファイル（PDF形式以外は受け付けません）を指定する。

・その内容を確認し、内容がよければ送信し、申込・投稿を完了する。

*原則として再投稿は認めないが、との送信内容に誤りがあった場合のみ、必要であれば締め切り期日内の再投稿も可能。その際は、再投稿であることを明記すること。

(3) 執筆要領テンプレートの入手方法

「論文集の執筆要領」は、本ニュースレターに示す通りですが、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ（http://www.iss.info/download/sadoku_form.dot）にありますので、是非ご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意下さい。

(4) 投稿規定により、筆頭著者は地域安全学会会員に限ります。また、筆頭著者は、研究発表会において発表しなければなりません。

(5) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、電子投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。

(6) CD-ROM版論文集にはカラー原稿がそのまま掲載できます。しかし、印刷用論文として白黒印刷を希望する場合は、白黒印刷でも図表が鮮明になることを予め確認した上で電子投稿してください。

(7) 一次審査後に提出していただく**印刷用オリジナル原稿**の提出(17年9月)は、**本年度につきましては例年通りの郵送になる予定**ですが、CD-ROM版論文集の作成のために査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順による最終原稿の電子投稿をお願いいたします。詳しくは、地域安全学会HPで順次お知らせいたします。

9月の印刷用オリジナル原稿の提出先（すべて郵送もしくは宅配のみ）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学工学研究科 都市社会工学専攻
地域安全学会 学術委員長 清野 純史 宛

査読論文投稿規定

平成11年4月(制定)
 平成12年3月(改定)
 平成13年3月(改定)
 平成14年3月(改定)
 平成16年3月(改定)
 平成17年3月(改定)
 地域安全学会 学術委員会

1 論文の内容

査読論文の内容は、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるもので、かつ結論の導出過程が適切であるものとする。

なお、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるものであれば、従来の学術論文の体裁にとらわれず、調査報告やコンピューターシステムの開発、訓練方法の提案・実施結果等も査読論文の対象とする。

2 投稿者

筆頭著者は、地域安全学会会員に限る。また、筆頭著者は、研究発表会において発表し、かつ、討議に参加しなければならない。査読終了後の修正論文における著者の変更や追加は、原則として認めない。

3 投稿先

査読用原稿は電子投稿、印刷用オリジナル原稿は地域安全学会学術委員会学術委員長

4 投稿期限

会告に従う。「地域安全学会論文集」は「地域安全学会梗概集」と同時期に、年1回刊行する予定であり、各年度の「地域安全学会論文集」への投稿期限は、別途、会告する。

5 査読手続き

5-1 査読実施機関：投稿された査読論文に対し、地域安全学会学術委員会（以下、委員会という）は2名の査読者による査読を行なって、「地域安全学会論文集」への登載の可否を決定する。

5-2 投稿者への問い合わせ：査読にあたって、委員会は筆頭著者に対して問い合わせ、または内容の修正を求めることができる。

5-3 査読の打ち切り：投稿された査読原稿に対する問い合わせ、または内容の修正を求めた期限以内に筆頭著者から回答がない場合には、委員会は査読を打ち切る。

6 投稿論文の作成および提出

6-1 投稿原稿の内容：投稿原稿は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中ではないものとする。また、学術論文として内容が完結していることが必要であり、「同一テーマのもとで分散して投稿したもの」と判定された論文は受け付けない。

6-2 執筆要領の準拠：投稿または修正された査読原稿は、「論文集執筆要領」に準拠していなければならない。

6-3 十分な推敲：投稿または修正された査読原稿は、十分に推敲されたものでなければならない。

6-4 言語：投稿または修正された査読原稿は、和文または英文でなければならない。

6-5 論文(講演)申込と査読用論文原稿の電子投稿：地域安全学会ホームページ(<http://www.issn.info/>)の査読論文申込・投稿画面の指示に従って、論文(講演)の申込と投稿を行う。

6-6 提出原稿の種類：原稿には、査読用原稿(電子投稿)と印刷用オリジナル原稿の2種類がある。査読用原稿は、地域安全学会HPから論文申込と同時にPDFファイルで電子投稿する。この際、最終的に印刷用論文として白黒印刷を希望する場合は、当初より白黒印刷でも図表が鮮明なものを投稿しなければならない。また、審査の公正を高めるため、査読用原稿には、氏名、所属および謝辞は記載しない。

6-7 印刷用オリジナル原稿：印刷用オリジナル原稿は、「地域安全学会論文集」への登載が決定した後に提出する原稿であり、氏名、所属および必要に応じて謝辞が記載されたもので、オフセット印刷用の版下原稿でなければならない。これを地域安全学会学術委員会学術委員長宛に郵便または宅配便にて送付する。また、CD-ROM版論文集の作成のため、印刷用オリジナル原稿のPDFファイルを査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順によって電子投稿する。

6-8 部数：委員会の修正要求に応じて修正した査読論文の提出部数は、送付時に折り曲げられないよう配慮してある印刷用オリジナル原稿と必要事項全てを記入した「地域安全学会査読論文送付票」を各1部、およびこれらのコピー(カラーを含む場合はカラーコピー)2部。

6-9 ページ数：図・表・写真を含め、最低6ページ、最大10ページの偶数ページとする。

6-10 図・表・写真：図・表・写真は、判読可能な鮮明なものでなければならない。

6-11 カラーの使用：文章および図・表・写真にカラーを用いる場合には、査読用原稿を投稿する際に、その旨申請すること。

7 著作権

「地域安全学会論文集」に登載された論文の著作権は著者に属し、地域安全学会は、編集著作権を持つものとする。

8 論文別刷り

「地域安全学会論文集」に登載された論文別刷りは、1編あたり50部を筆頭著者に送付する。なお、別刷りに要する費用は地域安全学会の負担とし、50部以上の要求には応じない。

地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例

Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Journal of Social Safety Science

(査読用原稿では、点線で囲まれた枠内は空欄とし、点線の枠も削除すること)

地域 太郎¹ , 安全 花子²

Taro CHIIKI¹ and Hanako ANZEN²

¹ 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

² 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

Key Words : three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font

1. はじめに

この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は、参考文献¹⁾を参考に、「地域安全学会論文集」の印刷用オリジナル原稿作成の指針を示したものです。

この電子ファイル(Word 2000)そのものは、地域安全学会論文集の完全版下原稿(和文)を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。と同時に、版下原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

細部について詳細に記述してありますが、多分野にわたる地域安全学会会員の学問分野を考慮し、参考文献の書き方等については、それぞれの学問分野の慣例を尊重することを前提としています。学術委員会としては、「この『査読論文執筆要領』に沿っていない」という理由のみで、「登載不可」とはしない方針です。ただし、公平を期すために、1ページ当り3,000字程度という規定は守っていただきます。

2. 用紙と基本構成

査読用原稿および印刷用オリジナル原稿は、A4判で提出して下さい。査読用原稿は、

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ アブストラクト(英文)
- ・ キーワード(英文)
- ・ 本文(和文または英文)

・ 補注(必要な場合)

・ 参考文献

の順に作成して下さい。

審査の公正を高めるために査読者には著者名を伏せて査読原稿を送付しますので、上記の点線で囲まれた著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)の部分は必ず空欄として空けておいて下さい。謝辞も同様に伏せてください。

平成17年度から、電子申込・電子投稿となりますので、期間内に地域安全学会ホームページ(<http://www.issc.info>)から、論文申込(講演申込を兼ねる)と論文原稿を同時に投稿してください。

査読の結果、修正をお願いすることがあります。

登載決定後は、上記の点線で囲まれた所定の部分に著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)を追記した印刷用オリジナル原稿とコピー2部を送付して下さい。なお、点線の枠は削除してください。

3. 論文送付票

地域安全学会ホームページの査読論文申し込み画面で、

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ 筆頭著者氏名(和文および英文)、所属(和文および英文)、および連絡先(郵便番号、住所、e-mail アドレス、電話番号、ファックス番号)
- ・ 連名著者全ての氏名・所属(和文および英文)
- ・ 原稿枚数、図・表・写真の枚数、カラー使用の有無に全てを入力し、送信して下さい。同時に、PDF形式とした査読論文を送信して下さい。

4. レイアウト等

レイアウトは、本要領に従って下さい。ただし、使用するソフトウェアやプリンターの違いによって、文字の大きさや字体、レイアウトの寸法などに若干の差異が生じても構いません。しかし、1ページ当りの字数に大幅な増減がある場合には、レイアウトの修正をお願いすることがあります。

(1) マージン等

- ・ 上下：各 20mm，左右：各 20mm
(ただし、1ページ目のみ上：30mm)
- ・ 二段組み本文の段組間隔は 8mm

(2) フォント等

フォントは、原則として、以下の通りとします。

- ・ 題目：和文はゴシック 14pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ 著者名：和文は明朝 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ 著者所属：和文は明朝 9pt，左揃え 30mm のマージン。
英文は Times New Roman 9pt，左揃え 30mm のマージン。
- ・ アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt，左揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3 - 6 語，2 行以内，左右各 30mm のマージン。
“Key Words” はボールドイタリック体。
- ・ 本文：明朝 9pt，行替えの場合は 1 字下げ。
 - 章の見出し：ゴシック 10pt，左寄せ
 - 節、項の見出し：ゴシック 9pt，左寄せ
 - 図、表、写真のキャプション：ゴシック 9pt，中央揃え
- ・ 補注、参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが、各学問分野の慣例に従っても構いません。
- ・ 補注(必要な場合)：“補注”はゴシック 10pt，左寄せ，補注自体は、明朝 8pt。
- ・ 参考文献：“参考文献”はゴシック 10pt，左寄せ。参考文献自体は、明朝 8pt。

(3) 行数および字数

a) アブストラクト

7 行以内として下さい。

b) 本文

二段組みとし、一段当りの幅は 81mm，1 行当り 25 字，行間隔は 4.0mm で、1 ページ当り 60 行を標準として下さい。したがって、文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります。

(4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて、最低 6 ページ，最大 10 ページの偶数ページとして下さい。

参考文献リストのあとに 1 行空けて、電子申込・投稿した日を受付年月日として、右詰めで書いて下さい。

5. 文章および章，節，項

(1) 文章の書き方

文章は口語体によって、とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は、漢字まじり平仮名書きとして下さい。私的な表現、広告・宣伝、特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい。

(2) 章，節，項のタイトルの書き方

章，節，項の見出し記号と前後の行空け等は、以下の通りとして下さい。

- ・ 章：“1 …… 9 .”，前 2 行空き，後ろ 1 行空き。
- ・ 節：“(1) …… (9)”，前 1 行空き，後ろ行空き無し。
- ・ 項：“a) …… z)”，前後行空き無し

6. 式，記号および単位系

(1) 記号等の用い方

式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い、必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい。

(2) 数式

数式は、式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ、必要に応じて本文中で説明して下さい。また、数式には、式の番号を “[1] …… [9]” とし、右寄せで付けて下さい。

(3) 単位系

単位は、原則として国際単位系：SI⁽¹⁾を用いて下さい。

7. 図，表，写真

(1) 図，表，写真の体裁

図，表，写真は、原則として、モノクロームとして下さい。ただし、カラーを使用せざるを得ない場合には、規定の登載料の他にカラー印刷の実費を納めていただきます。

(2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

図，表，写真は、最後にまとめて配置するのではなく、関連のある文章の近くに配置して下さい。

図，表，写真中文字やキャプション等は、本文と同じ言語を用いて下さい。

図，表，写真には、それぞれ一連番号を付けて下さい。

表のキャプションは上に、図および写真のキャプションは下に付けて下さい。

(3) 図，表，写真と文章との関係

図，表，写真をページの一番上または一番下に配置する場合以外、上下 1 行ずつ空けて下さい。図，表，写真は一段のみ、二段抜きのいずれでも構いませんが、図，表，写真の左右には本文を組み込まないで下さい。

図，表，写真は、本文と同じ方向で組み込むことを原則とします。ただし、1 ページ全体を 1 つの図，表，写真とする場合は、本文の方向から 90° 回転することができます。

(4) 写真について

査読用コピー原稿を提出する段階ではコピーで構いませんが、印刷用オリジナル原稿では印画紙(光沢紙)に焼き付けたものを所定の位置に貼り込んで下さい。

(5) 図、表、写真の引用について

図、表、写真を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、著作権法に抵触しないよう、著者の責任において原著者等の了解を得て下さい。

8. 補注について

本文中の脚注や注はできるだけ避け、本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい。ただし、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。

補注とする場合は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、明朝 9pt の上付きで示して下さい。

9. 参考文献について

参考もしくは引用した文献は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、本文中では明朝 9pt の上付きで引用して下さい。

末尾の“参考文献”の記述内容は、全ての著者、論文名、雑誌名または書名、巻号、ページ、発行所、発行年の順に記載して下さい。ただし、これらすべての記載があれば、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。著者が3名以上の場合に限り、第1著者のみを記載しあとを“他”または“et al.”としても構いません。

10. 印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会論文集」への登載を可とされた論文は、定められた期日までに、印刷用オリジナル原稿を提出していただきます。

印刷用オリジナル原稿とは、印刷・出版用の高度なタイプライターもしくはコンピューターシステムを用いて作成され、そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します。

これらの条件に合っていない場合には、登載できない場合がありますのでご注意下さい。

なお、CD-ROM 版論文集用に、別途、査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順で、最終原稿の電子投稿をお願いいたします。

11. 著作権と著者の責任

「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し、原稿の内容については著者が責任を持つこととなります。したがって、印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は、学術委員会の了承を得た上で、著者の責任において、文書で、当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい。

12. その他

(1) 受付年月日

電子申込・投稿が完了した日付を受付年月日とします。

(2) 登載決定

査読を経た印刷用オリジナル原稿が、本「査読論文執筆要領」に合致していると学術委員会が認めた時点で、登載決定を事務局より通知します。

(3) 査読者等の公表

個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません。

(4) 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は、本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい。しかし、英文の場合は、和文のタイトル、著者名、所属は不要です。

本文のフォントは、Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい。

補注

(1) 国際単位系

SI は、1960年の国際度量衡総会で採択され、メートル法の単位をもとに、現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で、以下のような長さ、質量、時間、電流、温度、物質質量、光度の基本単位があります。

長さ：メートル(m)	熱力学温度：ケルビン(K)
質量：キログラム(kg)	物質質量：モル(mol)
時間：秒(s)	光度：カンデラ(cd)
電流：アンペア(A)	

また、10の整数乗の単位を作るために以下のようなSI接頭語が定められています。

10^{24} ：ヨタ(Y)	10^3 ：キロ(k)	10^9 ：ナノ(n)
10^{21} ：ゼタ(Z)	10^2 ：ヘクト(h)	10^{12} ：ピコ(p)
10^{18} ：エクサ(E)	10^1 ：デカ(da)	10^{15} ：フェムト(f)
10^{15} ：ペタ(P)	10^0 ：デシ(d)	10^{18} ：アト(a)
10^{12} ：テラ(T)	10^{-2} ：センチ(c)	10^{21} ：zepto(z)
10^9 ：ギガ(G)	10^{-3} ：ミリ(m)	10^{24} ：ヨクト(y)
10^6 ：メガ(M)	10^{-6} ：マイクロ(μ)	

参考文献

- 1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引、論文集編集委員会関連資料、土木学会、pp.8-22, 1998.
- 2) Kanamori, H., Hauksson, E., and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.

(原稿受付 2005. M.DD)

2. 2005 年度総会・第 16 回地域安全学会研究発表会（春季）＜一般論文発表会＞・公開シンポジウム等開催のお知らせ

三陸地震津波に備える

岩手県田老町で 2005 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 16 回地域安全学会研究発表会（春季）＜一般論文発表会＞を行いますので積極的な投稿をお願いします。

第 16 回地域安全学会研究発表会（春季）および総会等関連行事

場所：グリーンピア田老（岩手県下閉伊郡田老町向新田 148 電話 0193-87-5111）

第 16 回地域安全学会研究発表会（春季）＜一般論文発表会＞

日時：2005 年 5 月 13 日（金）9：00～15：00

現地見学会

日時：2005 年 5 月 13 日（金）15：00～17：00

バスで津波対策施設、防災情報システムなどを見学

理事会

日時：2005 年 5 月 13 日（金）17：00～18：00

総会

日時：2005 年 5 月 13 日（金）18：00～19：00

懇親会

場所：グリーンピア田老

日時：2005 年 5 月 13 日（金）19：00～21：00

会費：一般（5,000 円）学生（2,000 円）

公開シンポジウム「三陸地震津波に備える」

場所：グリーンピア田老

日時：2005 年 5 月 14 日（土）9：30～12：00

司会：重川希志依氏（富士常葉大学）

コーディネーター：今村文彦氏（東北大学災害制御研究センター）

地元からの発表：体験談、三陸津波の映像（30 分）

話題提供・報告：

スマトラ沖地震津波（今村文彦氏（前掲）越村俊一氏（人と防災未来センター）

新潟県中越地震（澤田雅浩氏（長岡造形大学）田中聡氏（富士常葉大学））（60 分）

パネルディスカッション：上記出演者による（50 分）

5月13日(金)と14日(土)の昼食は、グリーンピア田老内のレストランで弁当または定食を予約する予定です。(各1,200円程度)

総会への出欠は今回同封した返信用葉書でご回答ください。

上記の時間は論文発表数により多少の変更があるかもしれません。

田老町滞在中に撮影した写真をもとにした写真コンテストを秋の研究発表会(静岡市)において開催する予定です。作品の準備をお願いします。

参加費

	参加費	梗概集
会員	3,000円 (講演梗概集1冊を含む)	参加者は1冊進呈 (追加購入は3,000円/冊)
一般論文発表者 (筆頭著者のみ)	無料	1冊進呈 (追加購入は3,000円/冊)
会員外	5,000円 (講演梗概集1冊を含む)	参加者は1冊進呈 (追加購入は3,000円/冊)
岩手県民の方	無料 (講演梗概集は別途購入)	3,000円/冊

田老町へのアクセスと宿泊について

アクセス

盛岡から田老まで、あるいは宮古から田老までのバス運行を検討しています。

<鉄道・航空機利用>

*東京方面からの場合

東京 盛岡(JR東北新幹線;約3時間30分)

盛岡 宮古(急行バス;盛岡駅前東口のりば発、約2時間15分)

宮古 田老(三陸鉄道北リアス線(久慈行き);16分)

*大阪方面からの場合

伊丹空港 花巻空港(JASまたはJAIR;1時間20分)

花巻空港 盛岡(バス;50分)

盛岡 宮古(急行バス;盛岡駅前東口のりば発、約2時間15分)

宮古 田老(三陸鉄道北リアス線(久慈行き);16分)

<車利用>

東北自動車道 盛岡南IC(国道106号線) 宮古

宮古(国道45号線 北へ30分) 田老

宿泊

原則的にグリーンピア田老に団体で予約する予定ですが、収容人数不足の場合は宮古市または田老町内の他の宿泊施設も検討します。事前に宿泊希望をうかがいますので、詳細は学会ホームページをご覧ください。

3. 調査・企画委員会の2004年度活動報告と2005年度活動計画

調査・企画委員会の新小委員会テーマ決定と委員募集のご案内

1. 2004年度の活動報告（前期）

人と地域の防災戦略研究小委員会

主査・荏本孝久（神奈川大学） 幹事・伊村則子（日本女子大学）

2004年度前期には3回（第16回 - 18回）の小委員会を開催した。これまでの委員会活動において蓄積されてきた広範な観点からの話題提供に対する討議の経過と具体的な調査活動として実施したアンケート調査による防災関連組織間の意識と相互の連携による地域の防災力評価について検討を進めるとともに、この調査結果の考察に基づいて、人と地域の防災戦略の要点について整理した。この活動に関連して、小委員会の活動報告として、上記アンケート調査結果を踏まえた報告書の作成について、意見交換を行いながら編集作業をおこなった。報告書として次を発行予定である。

地域安全学会「人と地域の防災戦略小委員会」：「組織の実態調査からみた地域の防災力評価 - 企業・ボランティア団体・自主防災組織を対象として - 」

また、この要点を踏まえた具体的な防災戦略を実践可能とする新しい研究テーマについて討議を重ね、次の小委員会の研究テーマをまとめて行く予定である。

2. 新しい小委員会の決定と委員募集のご案内

調査・企画委員会では、学会ニュースレターNo.48（2004年8月）No.49（2004年10月）により、新しい小委員会のテーマを募集し、審査の上、次の2つのテーマに決定しました。2004年度は台風災害、豪雨災害、地震災害、津波災害と国の内外で災害が多発し、会員各位におかれましても調査研究活動や実践的防災対策の推進の役割を果たされ、大変多忙な一年であったことと推察いたします。そのような事情から、小委員会の立ち上げが当初の予定から半年余り遅れておりますが、市民、自治体、企業を含めて防災意識と防災研究・実務への適用のニーズは大いに高まっており、今後はその時間を取り戻す大きな発展が期待されます。小委員会のテーマに興味と問題意識をお持ちの皆様は、主査の荏本孝久氏（神奈川大学）、矢代晴美氏（東京海上日動リスクコンサルティング（株））に連絡下さるよう、お願いします。

2 - 1 小委員会「高度実践防災戦略支援システムの開発」

・代表 主査：荏本孝久、幹事：伊村則子

・活動目的

「人と地域の防災戦略小委員会」では、広範な観点からの討議とアンケート調査を実施し、防災に関連する組織間の意識と相互連携による地域の防災力評価について検討した。これらの活動から、人と地域の防災戦略の要点である地域の防災に関する情報が共有化されておらず、並列的にある多種多様な情報の下に、有効な戦略構築が十分に行われていない傾向が認められた。本委員会ではこれらの情報を整理し、要点を踏まえた実践的かつ具体的な防災戦略を構築する支援システムを検討することを目的とする。

・計画

小委員会活動としては、人と地域の防災戦略小委員会を発展的に解消し、新たに委員会メンバーを募集して活動を展開する。活動計画としては、

1年度：既に公表されている多種多様な防災システムや防災関連情報を収集・整理して、目的・意図や適用対象に関する分類を行う。

2年度：地域特性を考慮して、実践的な防災戦略構築の需要や要望について調査（アンケート）し、具体的な防災戦略の支援システムを検討する。

3年度：近年切迫性が指摘されている東海・東南海・南海地震等の予想被災地域を視野に入れて、より実践的な防災戦略に適用可能な支援システムに関する調査・研究を展開する。

・委員募集条件、要望など

自治体，民間企業，自主防災組織などを対象として、広い視点から実践的な防災戦略を考慮しつつ、その具体的な支援システム構築をめざすことが目的であり、委員会活動に積極的に参加して頂ける研究者、実務者、大学院生から興味のある多くの学会員の参加を希望します。希望者の方は、以下の項目を添えて、5月20日までに下記へ御連絡下さい。

氏名、所属、連絡先住所、メールアドレス、電話、ファックス、専門分野や地域安全との関わり、志望の動機や関心など（簡単な御意見でも結構です）

[連絡先] 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学工学部 荻本孝久

TEL:045-481-5661/FAX:045-491-7915, E-mail:enomoto1@kanagawa-u.ac.jp

3 - 2 小委員会「企業の災害時業務継続計画（BCP）の基本的考え方に関する研究」

・代表 矢代晴実：東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

・活動目的

阪神大震災、米国同時多発テロ、SARSなどの教訓を踏まえて、災害時などにおいても業務を継続し、企業等を存続させるための業務継続計画（BCP）への関心が高まっている。

しかし、その内容は多岐にわたり内容に関しても統一的な考え方すらない状況である。そのため、BCPとはなにかについて整理し、リスクマネジメントや危機管理における位置付けを明確にしたい。

・計画

米国等の企業のBCPの文献収集・分析及び日本企業の具体的な取り組みに関して、アンケート等により事例を収集する。

日本企業におけるPCPに関して、会社レベル、市場レベル、社会レベルでの枠組みに関して研究を行い、概念を構築する

日本企業が備えるべきBCPに関する項目、アウトラインを具体的に提示し、BCPのあるべき姿を提言する

・委員の募集条件

テーマに関心のある方ならば、何方でも参加いただきたい。希望者の方は、4月30日までに下記へ御連絡下さい。

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

矢代晴実

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-2-1 東京海上ビル新館8階

TEL: 03-5288-6587 FAX: 03-5288-6590

E-Mail: h.yashiro@tokiorisk.co.jp

調査・企画委員長、村上ひとみ(山口大学)

e-mail: hitomim@yamaguchi-u.ac.jp

TEL/FAX: 0836-85-9537

(文責：村上ひとみ 委員長、大西一嘉 副委員長)

4. 役員選挙規定改定案の概略説明

地域安全学会役員選挙制度の制定について

地域安全学会理事会

地域安全学会理事会では、理事会の公明性をより高め、学会運営に会員の声をより反映させるために、役員選挙制度について2006年度からの実施を目指して検討しております。5月開催予定の総会で会員の皆様に審議していただく予定です。原案を以下に示しますので、あらかじめお目通しの上、総会でご審議いただきますようお願いいたします。なお、総会で承認いただければ、本年10月中旬頃に選挙管理委員会を設置し、立候補の受付を開始し、来年1月下旬頃に、候補者リスト、選挙用紙、会員名簿を配布し、投票というスケジュールを考えております。

地域安全学会会則・改定案（下線部が改定部分）

（役員）

第10条 本会に、次の役員を置く

- 1 理事 20名以上30名以内（うち一名を会長、2名を副会長とする）
- 2 監事 2名

（役員を選任および任期）

第11条 理事および監事は、選挙により正会員の中から選出し、総会において選任する。

2 理事および監事選挙は別に定める規約に基づき行う。

3 理事および監事の任期は、その就任後2回目の通常総会の終結にいたるまでとし、毎回その約半数を交代する。但し、再任は妨げない。

4 会長は、理事会において総会で選任された理事の中から選出する。会長は、副会長を理事の中から指名する。

（地域安全関連省庁理事）

5 選挙で選出する理事以外に、地域安全に関わる省庁からの理事若干名を置く。省庁からの理事は総会において承認を受ける。

6 役員に欠員が生じ理事会の運営に大きな支障があると会長が判断した場合には、会長が必要な役員の指名を行い、理事会に諮り承認を得るものとする。追加した役員の任期は就任後1回目の通常総会の終結にいたるまでとするが、再任は妨げない。

（役員職務）

第12条 理事は、理事会を構成し、会務を執行する。

- 2 監事は、本会の会計および会務執行の状況を監査する。

（会長、副会長）

第13条

（理事会）

第14条

（顧問）

第15条 本会に理事会の囑託により顧問をおくことができる。

顧問は、理事会から推薦された会長歴任者、もしくは理事会が推薦し総会において承認された理事経験者とする。

地域安全学会役員選挙規定（案）

（総則）

第1条 この規約は地域安全学会（以下本会という）の役員（理事、監事）の選挙に適用する。

（選挙管理委員会）

第2条 この規定による選挙は、本会選挙管理委員会規程に定める「選挙管理委員会」が、これを管理する。

（選挙権、被選挙権）

第3条 投票締切日の前月1日から引き続き投票締切日まで正会員（正会員とは、学生会員、賛助会員以外の会員を言う）である者は、当該する役員選挙の選挙権、被選挙権を有する。

（選挙役員の所定数）

第4条 理事会は、会則に基づき、次期役員のうち選挙対象の役員の所定数を確認し、選挙管理委員会に通知する。

（役員選挙の通知）

第5条 選挙管理委員会は、候補者届出開始日とその締切日、投票開始日とその締切日を定め、次期役員の所定数を合わせ、正会員に事前に通知しなければならない。

（候補者）

第6条 役員に立候補する者は、3名以上の正会員よりなる推薦人の名簿と推薦理由を添えて、選挙管理委員会に届け出ることとする。

第7条 候補者の届出が、指定した期日までに行われない場合、もしくは候補者が所定数に満たない場合は、理事会は速やかに候補者を選定するものとする。

（候補者および有権者名簿）

第8条 選挙管理委員会は、候補者の届出終了後速やかに候補者名簿および有権者名簿を作成する。名簿は、投票開始日時から投票締切日まで本会事務局に備え付け、会員の閲覧に供する。候補者名簿には、候補者氏名、推薦人氏名、候補者の立候補理由または推薦人の推薦理由を記載する。

（投票および開票）

第9条 選挙は、候補者名簿に記載された候補者に対する無記名投票によって行い、第4条に定められた所定数までの連記とする。

第10条 投票用紙と郵送用封筒は、選挙管理委員会が正会員に郵送する。投票は、所定の投票用紙を所定の封筒に入れ、指定された投票先に、別に定める日時までに郵送により行う。この時、所定の封筒には有権者の氏名を自署する。

第11条 選挙管理委員会は、投票終了後速やかに開票を行う。

（有効および無効票の判定）

第12条 以下の投票は、無効とする。

- (1) 正規の投票用紙および封筒を用いないもの。
- (2) 郵送用の封筒に、有権者の氏名が記載されていないもの。
- (3) 郵送用の封筒に、複数枚の投票用紙が封入されているもの。
- (4) 規定の数を超過して候補者名を記載したもの。

(当選者の決定)

第13条 有効投票数の多い者から、順次所定数に充つるまで当選者とする。

2 有効投票数が同数の場合は、年齢の若い候補者から順次当選者とする。

(選挙結果の通知)

第14条 選挙管理委員会は、開票終了後速やかに会員に選挙結果を通知する。

(その他)

第15条 役員選挙に関し本規定に定めがないことについて問題が生じた場合には、会長が専決し処理に当たる。なお、会長は直近の理事会において専決処理事項を報告し、承認を得るものとする。

付則

1 この規定は、2005年 月 日から施行する。

2 この規定の改廃は総会の議を経なければならない。

地域安全学会・選挙管理委員会規定（案）

（総則）

第1条 この規定に定める選挙管理委員会は、地域安全学会が別に定める理事の選挙規定に基づく選挙の管理および執行を行う。

（選挙管理委員会）

第2条 選挙管理委員会は、理事会の議を経て会長が委嘱した5名の委員によって構成する。会長は、委員のうち1名に選挙管理委員長を委嘱する。

第3条 会長は、選挙管理委員会に対し、職務遂行できる十分な時間余裕をもって委嘱しなければならない。

第4条 選挙管理委員会は、選挙規定に定める告示に合わせて、選挙管理委員の氏名を正会員に公表しなければならない。

（委員の任期）

第5条 委員の任期は、委嘱から選挙結果が確定するまでとする。

（禁止事項）

第6条 選挙管理委員は、役員選挙候補者の推薦人となってはならない。推薦人となる場合は委員を辞さなければならない。

（解任）

第7条 委員に事故ある場合、または本人から選挙管理の任に耐えないとの申し出があり会長が認めた場合には、委員を解任できる。

（委員の補充）

第8条 委員長が欠員となった場合には、会長は委員の中から後任の委員長を委嘱する。委員会の構成が2名以下とならない限り委員の補充は行わない。

（報酬）

第9条 委員は無報酬とする。

5. Information

「GIS 推進特別研究委員会」委員の公募について

このたび、「GIS 推進特別研究委員会」を設立することになり、委員を公募しております。意欲ある会員の方々の参加を期待しています。

委員会の目的と内容

災害対応においては、関係する各機関、被災地域の住民などで情報を共有し、連携して対応に当たることが重要であり、GIS（地理情報システム）はそれを支援する有用なプラットフォームになる。2005年10月23日の新潟県中越地震発生後、その復旧・復興を支援するために、主旨に賛同する機関・有志のボランティアにより、「新潟県中越地震復旧・復興 GIS プロジェクト」が立ち上がって、活動を続けている。また、「福岡県西方沖地震復旧・復興 GIS プロジェクト」も2005年3月末に立ち上がった。

本特別研究委員会は、同プロジェクトの関係者、およびGISの研究者等により構成され、同プロジェクトの活動を地域安全学会として支援するとともに、その実践の経験、ノウハウの蓄積をふまえて、今後、災害対応にGISを有効に活用するためのガイドラインの作成、活用手法の標準化、および、組織・運営体制の構築について研究することを目的とする。具体的な検討課題は以下のとおりである。

- 1) 「新潟県中越地震復旧・復興 GIS プロジェクト」, 「福岡県西方沖地震復旧・復興 GIS プロジェクト」の支援
- 2) GISによる災害対応、特に復旧、復興における支援内容とそれを実現するための空間情報の整理
- 3) GISによる空間情報の提示方法、機能に関する検討、それを支援するデータベーススキーマの検討
- 4) 2) 3) を実現するためのGISに関する技術的な検討
- 5) 災害対応にGISを有効に活用するための組織・運営体制の検討

委員会構成（予定）

- 委員長 佐土原 聡（地域安全学会理事・横浜国立大学）
委員 林 春男（地域安全学会理事・京都大学）
委員 澤田 雅浩（長岡造形大学）
委員 「新潟県中越地震 GIS 復旧・復興支援プロジェクト」, 「福岡県西方沖地震復旧・復興 GIS プロジェクト」関係者（研究者、省庁関係者、企業関係者、その他）
委員 GIS 研究者
委員 地域安全学会会員（公募による）

期 間：2005年6月～2007年3月までの約2年間

参加申し込み・問い合わせ

地域安全学会事務局（担当：宮本）：Tel. 03-3615-3026 FAX 03-3615-4639

Eメール iss@kt.rim.or.jp

お申し込みの際には氏名、所属、連絡先をご連絡ください。

締め切り：2005年5月27日（金）

地域安全学会広報委員会

広 報 委 員 長：糸井川 栄一

ニュースレター／HP担当：村 尾 修

ニュースレター 編 集：佐々木 美絵



地域安全学会ニュースレター
第 51 号 2005 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒135-0052 東京都江東区潮見 2-10-24 カテナビル 5 階 株式会社システムソフト内
Tel : 03-3615-3026 Fax : 03-3615-4639
E-mail : iss@kt.rim.or.jp
HP : <http://www.kt.rim.or.jp/~iss/>

次のニュースレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://www.kt.rim.or.jp/~iss/>)をご覧ください。